



慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構教授
中村伊知哉

今年に入ってはまったモノ：iPhone

雑誌でみる限り、さほど魅力的ではない。海の向こうでは何を大騒ぎしているのか。ケータイのマルチメディア化が遅れたアメリカの背伸びではないか。私がMITにいたころ、西海岸のベンチャーが持ち込んだモバイル端末のプロトタイプはどれもこれも「そんなの、もう日本じゃ女子高生が使ってるよ」というようなものばかりだったぞ。

先日、慶應が来年度開校する大学院「メディアデザイン研究科」の説明会で、私は「日本には産学官連携のプラットフォームが欠けている。MIT Media Labやスタンフォードがアメリカで成功させた機能を、デジタルのユーザー力で上回る日本に整備したい」と説いていたその場に、NY帰りの知人がiPhoneを持ち込んだ。

さわってみると、オヤ。こりゃどうだ。ステキじゃないですか。オッ。サクサクじゃないですか。困ったねどうも。タハッ。降参しました。電話は使えなくても、wifiがあれば、ブラウザーもメールも使えるし、Skype使えば通話もできると。iPodはついてるし、カメラもきれいだし、あとはプレゼンする機能がしっかりしていれば、かなり欲しいです。てゆーか、電話いらさないから、iPodにネット機能がついてこのインターフェースだったらスグ買うということだね。

にわかには悔しくなってきた。モバイルの新モデルをアメリカに提示されてしまったのか。PCの新モデル、\$100PCもアメリカだ。日本はDSやWiiが気を吐いているが、PCやモバイルの次の世界を描くような新しいメディア像を日本から提示したいものだ。新しい大学院は、そんなことに挑戦してみたい。

ネットで見つけた面白動画：イカ天に出場したときの突然段ボール

二十数年ぶりにベーシストとして復帰したパンクバンドのライブを高円寺のライブハウスで行った。一緒に出演したのが「突然段ボール」。結成三十年を迎えるものの、ディープなインディーズマニアしか知らない伝説のバンド。懐かしくて、ライブ前にYouTubeを探してみたら、彼らが洒落で「いかすバンド天国」、通称イカ天に出演した際の映像がアップされていた。三宅裕司が若い。もう二十年近く昔のことだからね。もちろん著作権違反でしょうダメでしょう見ちゃ。イカ天はアミューズが仕掛けたテレビ番組だ。ライブ後すぐ、アミューズの会長・社長らと話す機会があったので、イカ天の映像をYouTubeであれこれ楽しめますよ、と申し上げたのだが、善良な市民としては黙っていたほうがよかったか。あるいは、YouTubeに上がっているほうがビジネス的には好都合なんだろうか。

vol.45
2007.8.20